



徳島県

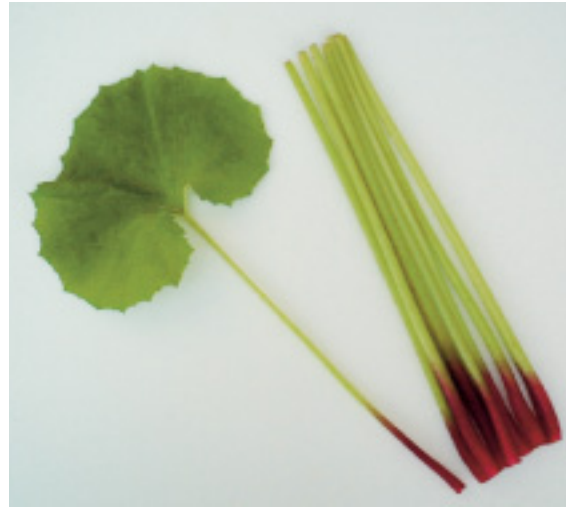
徳島県立農林水産総合技術センター

農業研究所ニュース

第100号 平成17年3月



夏秋イチゴ新品種「あわなつか」



山フキ新品種「みさと」

競争激化の中での中山間オンリーワン育成



先日、県外から新しく育成した品種の産地視察依頼があった。現場は都合が悪いとのことで池田分場での状況を見ていただいた。当日、産地づくりの取り組みについては普及センターの職員が説明し、研究所の試験については分場の職員が行い、質問等については農協の職員も来ていたのでそれぞれでお答えした。その際、説明の最後に「研究所で育成した品種は県内限定で、県外の方はお持ち帰りできません」と言うと視察に来られたお客様は笑っておられた。

最近、長引く不況と国内外の産地間競争の激化から地域の新しい技術や品種を地域以外に出さない傾向にあると言われている。また、今まで特許になじまないと思われていた植物の栽培方法の新技術も特許を取ったり、種苗法の改正による育成者権の期間の延長、農林水産省の「植物新品種の保護に関する研究会」の農家の自家増殖の権利を現状通り認めながらも、将来的には育成権のおよぶ品目を拡大していこうとする最終案等、知的財産として発明者や育成者の権利を一層保護する方向にあり、県によっては農家の知的財産を保護するため、農家が開発した商品のブランド化をお手伝いするための特許や商標取得等の普及啓発、特許権、品種登録の相談を受ける機関を設置したところもあるようだ。

中山間担当では現場の様々な要望やシーズをもとに、ここ数年間でも有効積算温度によるタラノメの出荷予測技術、葉柄基部の紅色が鮮明でふきのとうの品質の良い山ふき専用の新品種「みさと」の育成、奇形果が少なく収量の多い夏秋イチゴ「あわなつか」の品種育成等、中山間の地域資源や気象を生かし地域に根ざした独自の新技术や品種を開発してきた。

新技术や品種の「囲い込み」についてはそれぞれ賛成、反対の議論があろうが、中山間担当では、農家の方々から「それは他には出さないでくれ」と言われるような品種や技術を開発し、オンリーワン品目をこれからも創りだしていきたいと頑張っているので関係者のご支援ご協力をよろしくお願ひします。

(中山間担当次長 脇屋 春良)

【はじめに】

徳島県を代表する特産物である「なると金時」は、紡錘形の形状や鮮やかな皮色等優れた外観品質に加えて程良い甘さとホクホクした食感が市場で高い評価を受けている。近年、消費者が農産物の食味を重要視する傾向に拍車がかかり「なると金時」においてもより一層の食味向上と品質の均一化が求められている。

そこで、塊根中の水分含量とβ-アミラーゼ活性がサツマイモの食味を左右する糖含量に及ぼす影響を検討したところ、糖含量を向上させる栽培方法の確立に向けて有用な知見が得られたので紹介する。

【試験方法】

- 1 現地砂地畑14圃場から各10本毎、合計140本の「なると金時」を採取し試験に供した。
- 2 糖度は、蒸しイモに3倍量の蒸留水を加え30秒磨砕後にろ液を屈折糖度計で測定した。糖含量は、HPLC(高速液体クロマトグラフィー)を用いて蒸しイモ中のフラクトース、グルコース、スクロース、マルトース含量を測定し、合算して求めた。
- 3 同時に生イモ中の水分、窒素、リン、カリウム、カルシウム、マグネシウム、鉄、亜鉛、マンガン含量を測定した。
- 4 研究所圃場で慣行栽培した25本の「なると金時」についてβ-アミラーゼ活性及び蒸しイモ糖度を測定した。

【試験結果】

- 1 蒸しイモ中の糖含量と糖度との間に有意な相関関係が認められた。従って、蒸しイモ糖度から糖含量を推定できることが明らかになった(図1)。
- 2 生イモ中の水分が少ないほど蒸しイモ糖度が高

い傾向が認められた(図2)。

- 3 生イモ中の窒素含量が高いほど蒸しイモ糖度が高くなるが、一定量を超えると糖度が増加しないことが明確になった(図3)。
- 4 生イモ中のマグネシウム含量と蒸しイモ糖度との間には明確な関係は認められず(図4)、リン、カリウム、カルシウム、鉄、亜鉛及びマンガンにおいても同様であった。
- 5 生イモ中のβ-アミラーゼ活性と蒸しイモ糖度に有意な相関関係が認められた。すなわち、β-アミラーゼ活性が高いほど糖度が高くなると言える(図5)。
- 6 サツマイモは生イモ中のデンプンに熱が加わって糊化デンプンに変化し、その後糖化酵素であるβ-アミラーゼが働いて麦芽糖(マルトース)が生成され、甘みが増す(図6)。なお、β-アミラーゼの主要構成成分は窒素である。

以上のとおり、サツマイモの糖含量を向上させるためには、サツマイモ中の水分含量を低下させるとともにβ-アミラーゼ活性を高めることが不可欠なことが判明した。

【おわりに】

サツマイモの糖含量を増加させるためには、①既に公表している「サツマイモ栽培における土壌水分管理指針」に示したとおり、収穫1ヶ月前程度から土壌を乾燥状態に管理し、サツマイモ中の水分含量を低下させる。②β-アミラーゼの主要構成成分である窒素を収穫間際まで切ることなく、しかも決して過剰施肥とまらない程度に推移させることが必要である。

このため、現在、β-アミラーゼ活性を高めるための土壌中窒素の管理指針策定に取り組んでいる。

(プロジェクト担当 梯 美仁)

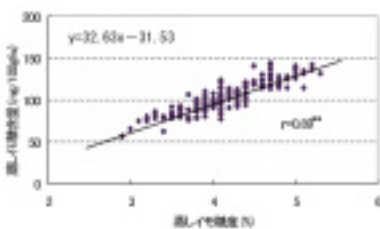


図1 蒸しイモ糖含量と蒸しイモ糖度

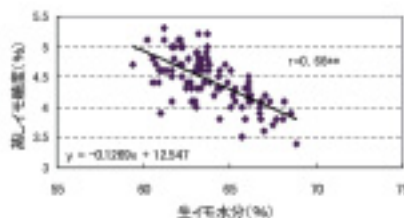


図2 蒸しイモ糖度と生イモ水分

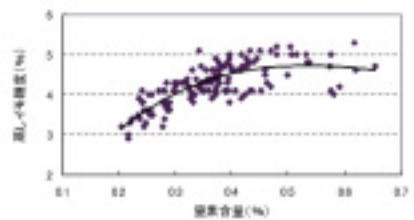


図3 蒸しイモ糖度と窒素含量

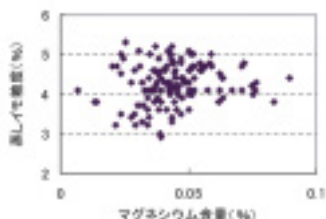


図4 蒸しイモ糖度とマグネシウム含量

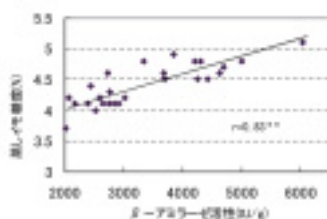


図5 蒸しイモ糖度とβ-アミラーゼ活性



図6 サツマイモの糖化メカニズム

【はじめに】

コショウランのクローン苗生産ではPLBを切って培養し、増殖を行う。当研究所では、増殖培地として増殖が優れるハイポネックスポテト培地(木村, 1991)を使用している。しかし、コショウランの品種のなかには、PLBの活着が悪いものがあり問題となっていた。

そこで、PLBの切り方を改良し、「部分切開処理」を行ったところ、PLBの活着率が向上することがわかったので、紹介する。

【試験方法】

実生株から選抜した3系統(系統1、系統2、系統3)を供試し、試験区は、PLBの切り方を、「部分切開処理」、「切除処理」、「切除+2分割処理」とした(図1)。供試したPLBは、継代培養から約2カ月間経過した葉長5~10mm、根長0~1mm(切除)のものとし、増殖培地は、Polyvinylpyrrolidone(PVP)を培地1ℓあたりに1.6g添加したハイポネックスポテト培地(pH5.3)を用いた。培養容器は100mlまたは500mlのガラスフラスコ、培地量は30mlおよび100mlで、培養条件は25℃設定、照度1,000lx、16時間日長とした。供試数は500ml容器で30個、100ml容器で10個、各2反復とし、調査は2カ月後に行った。

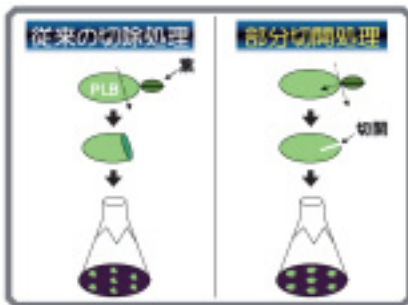


図1 部分切開処理の手順

【試験結果】

1) 2カ月後のPLB形成

処理部位から1~2枚の葉が展開しやすく、PLBの表面から新しいPLBを形成する(図2)。

2) PLBの活着率

処理間で差がない系統もあったが、部分切開処理では3系統とも100%となった(図3)。

3) PLB獲得数(PLB10個植え付けの場合)

活着率が低い系統3では、部分切開処理でのPLB獲得数が、切除処理の5倍、切除+2分割処理の25倍であった(図4)。

4) 処理部位からの葉の展開率

部分切開処理では、70~97%となった(図5)。

部分切開処理によって活着率が高くなる要因としては、植え付けるPLBには切除部分がないため、体積が大きく、また活着の良否に関わるPLBの生長部分が除かれないことが考えられた。

また、処理部位から展開した葉が正常であるかを見ることで、変異したPLB集塊を排除でき、変異削減技術としても利用できると考えられた。



図2 部分切開処理でのPLB形成

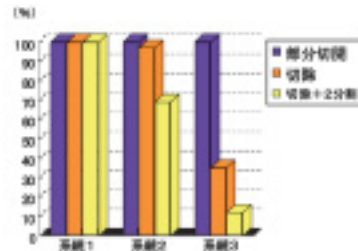


図3 PLBの活着率

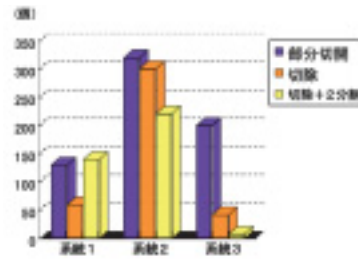


図4 PLB獲得数(10個植付け)

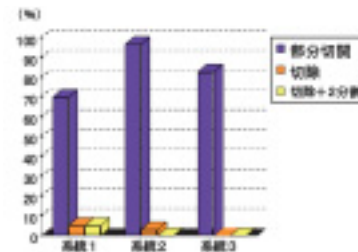


図5 処理部位からの葉の展開率

【おわりに】

本成果は、PLBの活着率が低い品種の増殖だけではなく、PLBの初期の増殖段階においても有効であり、コショウランのクローン苗生産を飛躍的に効率化する技術であると考えている。

(栽培育種担当 新居 宏延)

【はじめに】

1995年にオンシツツヤコバチとチリカブリダニが天敵昆虫製剤として初めて農薬登録を取得し海外から導入されて以来、着々とその普及が拡大しつつある。しかし、その一方で国内に生息する在来天敵の利用が見直され、現在その研究が盛んに行われている。

本情報では、天敵昆虫製剤を利用し化学農薬使用量を制限した県内の生産現場で発見、採取したアブラムシ類の在来寄生蜂であるチャバラアブラコバチを大量増殖し、促成トマトで問題となるヒゲナガアブラムシ類の防除に利用し、その効果を検討したので紹介する。



写真1 チューリップヒゲナガアブラムシに産卵中のチャバラアブラコバチ

【試験方法】

試験1：ビニルハウス3棟(約50㎡)内にミニトマト(品種：ミニキャロル)を2003年4月11日に約60株定植し、4月18日にチューリップヒゲナガアブラムシを全株に幼虫を1頭/株、放虫した。試験区として天敵のチャバラアブラコバチ(徳島農研累代系統(2001年、土成町で採取、写真1)を1株当たり1頭放飼した区(1頭/株区)、4株当たり1頭放飼した区(0.25頭/株区)、無放飼区を設け、2003年4月24日、5月1日、5月8日に株元に雌成虫1頭づつを放飼した。調査は区内の固定した10株のうち、チューリップヒゲナガアブラムシを放虫した複葉と5月20日からはその株の第4果房付近の複葉をマークし、3～4日間隔でチューリップヒゲナガアブラムシの寄生虫数を数えた。

試験2：ビニルハウス3棟(約100㎡)内に大玉トマト(品種：ハウス桃太郎)を2002年10月20日に約100株定植し、3月25日にチューリップヒゲナガアブラムシを固定した20株の第10果房上付近の複葉に成虫を1頭/株、放虫した。試験区としてチャバラアブラコバチを1棟当たり100頭放飼した区(100頭/棟区)、1棟当たり50頭放飼した区(50頭/棟区)、1棟当たり10頭放飼した区(10頭/棟区)、無放飼区を設け、4月16日、4月23日、4月30日にハウス内の中央に放飼した。調査は区内のチューリップヒゲナガアブラムシを放虫した20株のうち、放虫した複葉とその周辺2複葉のチューリップヒゲナガアブラムシ寄生虫数を約7日間隔で数えた。

【試験結果】

試験1：各試験区におけるチューリップヒゲナガアブラムシの個体数推移は無放飼区が下位葉、上位葉とも個体数を増加させる一方、0.25頭/株区、1

頭/株区は下位葉では5月16日を、上位葉では6月17日をピークに減少した。また、1頭/株区が0.25頭/株区に比べて個体数が少なく推移した(図1)。

試験2：50頭/棟区、100頭/棟区とも株当たり30頭以下で推移した。また、10頭/棟区は5月29日までは無放飼区と同程度で推移した。その後無放飼区は急増したが、10頭/棟区は株当たり約80頭にとどまった(図2)。

以上の結果から、チャバラアブラコバチ雌成虫を株当たり0.25～1頭の割合で3回放飼するとチューリップヒゲナガアブラムシに対して密度抑制効果がみられ、実用性があることが示唆された。

【おわりに】

市販されているコレマンアブラコバチではヒゲナガアブラムシ類に効果がなく、幅広い種のアブラムシに有効な天敵昆虫が求められている。今回検討したチャバラアブラコバチはヒゲナガアブラムシ類の他、果菜類で問題となるモモアカアブラムシ、ワタアブラムシにも室内レベルでは効果が認められている。しかし、チャバラアブラコバチをアブラムシ類の防除資材として実用化させるためには農薬登録の取得が何よりも必要であり、そのためには今後、トマト以外、例えばナス等に発生するアブラムシ類の防除効果や複数種のアブラムシ類が存在した場合での防除効果等を検討する必要がある。

(病害虫担当 中野 昭雄)

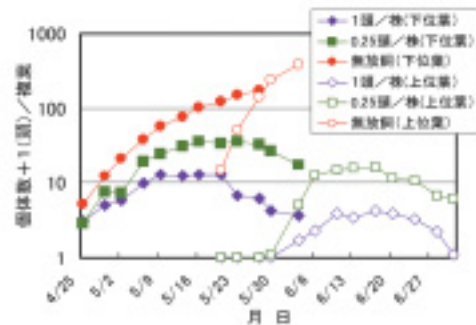


図1 各試験区におけるチューリップヒゲナガアブラムシの個体数推移(試験1)

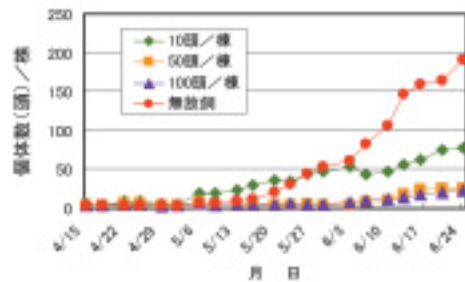


図2 各試験区におけるチューリップヒゲナガアブラムシの個体数推移(試験2)

現在、普通期栽培地帯の主力品種としての地位を占めているキヌヒカリは、穂発芽しやすい上に心白粒の発生が多い欠点があり、毎年1等米比率が低く問題となっている。このため同熟期の良食味品種で、穂発芽しにくく、心白粒の発生が少ない、しかもある程度ブランドが確立されていて流通上有利なもの、という観点から選定した結果、あきたこまちがこれらの条件を満たすことが認められ、奨励品種に採用されることとなったので紹介する。

○特性概要(キヌヒカリと比較して)

葉色は生育全期を通じてやや濃い。稈長は約3cm長く、穂長もやや長い。穂数はやや多い偏穂数型である。粒大はほぼ同等である。外観品質は心白の発生が少なく、同程度～やや良質である。食味は同等以上の良食味である。

出穂・成熟期は、早期栽培で6～7日早くなるが、普通期栽培では2～3日程度に縮まる(表4)。

精玄米千粒重および収量性はほぼ同等であるが、耐倒伏性はやや弱い。いもち病に対しては抵抗性遺伝子*pi-a*、*pi-i*を持つと推定されるが、圃場抵抗性はやや優る「中」程度である。明らかに穂発芽しにくく(表3)、格付けは「やや難」とされる。

○栽培上の注意事項

あきたこまちは基肥量を多く施用しても収量はそれほど高くなり、倒伏の増大、品質の低下、玄米蛋白含量の過剰を招くので、基肥は控えめとし、穂肥で生育量を調整する。いもち病に対してはキヌヒカリよりやや強いが、圃場抵抗性は中程度であることから適期防除に努める。

(栽培育種担当 吉原 均)

表1 食味官能試験結果

	外観	香り	硬さ	粘り	味	総合	パネラー数
あきたこまち	-0.45*	0.09	-0.09	0.91**	0.55*	0.91**	11人

注1) 基準品種はキヌヒカリ。

注2) 評価基準は、基準品種を0とし、-3(かなり不良)～+3(かなり良い)の7段階で評価。

注3) 表中*は5%、**は1%の有意水準を示す。

表2 生育調査結果(H14～16)

品種名	施肥	出穂期 月.日	成熟期 月.日	稈長 cm	穂長 cm	穂数 本/m ²	外観品質 (1-9)
あきたこまち	標	8.03	9.06	80	18.3	331	4.5
キヌヒカリ	肥	8.04	9.07	77	17.5	321	4.5
あきたこまち	標	8.03	9.09	85	19.2	406	4.8
キヌヒカリ	肥	8.05	9.10	83	18.4	381	5.0

注1) 移植期は5月30日(表中データとともに3年間の平均値)。

注2) 本田窒素施用量は図1の注を参照。

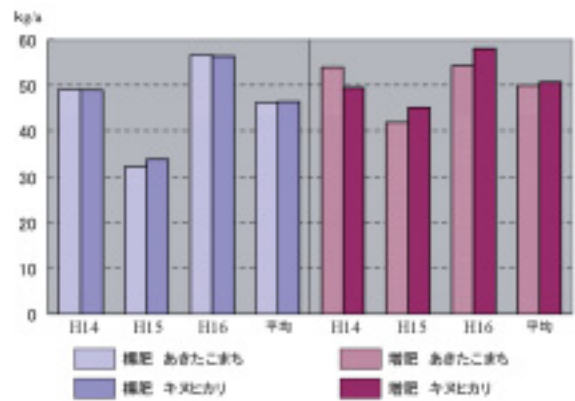


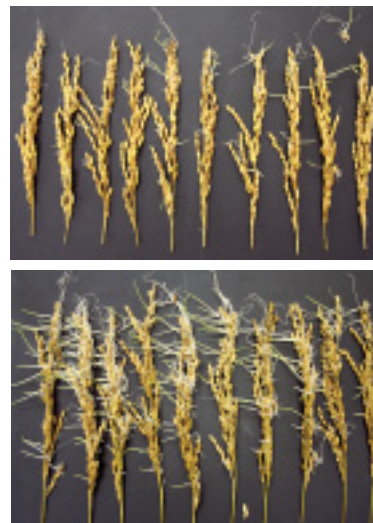
図1 収量性の比較

注1) 平14, 15は標準肥区基肥0.5kg/a、穂肥0.3kg/a。増肥区はそれぞれ5割増。

注2) 平16の基肥は標準肥区0.6kg/a、増肥区0.9kg/a。穂肥は両区とも0.24kg/a。

表3 穂発芽性の比較

	総粒数	稔実粒数	発芽粒数	発芽率(%)
あきたこまち	989	881	41	4.7
キヌヒカリ	1,059	883	429	48.6



注) 上: あきたこまち 下: キヌヒカリ

成熟期の穂を10穂採取、加湿して28℃で1週間静置した。

表4 作期移動試験(平成15～16年)

移植期 月.日	出穂期		成熟期	
	月.日	キヌヒカリ対比	月.日	キヌヒカリ対比
5.01	7.11	-6	8.16	-7
5.16	7.22	-4	8.28	-6
5.30	7.31	-4	9.07	-3
6.13	8.09	-3	9.15	-2

注) 数字は2カ年の平均

農業研究所では研究の取り組み状況や得られた成果を紹介し、同時に生産者との意見交換で出された意見や現場の問題点等を研究に活かしていくことを目的として、平成11年度から地域交流フォーラムを開催しています。

今年度は鳴門市と美馬町において開催しましたのでその概要を報告します。

砂地畑農業における試験研究成果と今後の展開方向

開催日 平成16年11月19日

会場 マイスターなると

生産者・JA等関係機関を中心に約70人の参加がありました。まず、プロジェクト担当から過去数年にわたる試験で解明されたサツマイモの生育段階に応じた適正な土壌水分管理方法について、病害虫担当から農薬使用者や周辺環境の安全を考慮した土壌病害の防除方法に関する試験成果について、また、企画経営担当から今後の農業研究所の砂地畑研究への取り組みについて紹介しました。続いて徳島農業改良普及センター鳴門藍住営農室から農薬の安全使用、特にクロルピクリンの使用に関して注意事項の説明を行いました。休憩をはさんで総合討論が行われ、その中でキュアリングや立枯病防除など栽培管理に関する質問、残留農薬の分析に関する意見などが出されました。



鳴門市での開催状況

中山間農業の振興に関する研究成果～山菜を中心として～

開催日 平成16年11月26日

会場 JA美馬美馬支所



美馬町での開催状況

協町農業改良普及センターとの共催により、約60人の参加者を迎えて開催されました。最初に農業アドバイザーの畑野辰夫先生から「山里の宝探し」という題で、近年山菜の需要が高まっていることやこれに対応して少しずつでも山菜を畑の隅などに植えておくことが必要といった内容で基調講演をいただきました。続いて、農業研究所から山菜についてこれまでに得られた研究成果の紹介や、洋ニンジンの現地試験について成果発表を行いました。その後の総合討論ではフキの敷き草等栽培管理方法に関する質問や他の山菜の試験要望等が出されました。会場には山菜に関する研究成果をまとめたパネルや、普及センターで調理された山菜を材料とした料理も並べられ、興味深く試食する方が見受けられました。

いずれの会場においても熱のこもった議論が交わされ、盛況のうちにフォーラムを終えることができました。
(企画経営担当 秋月 学)

農業研究所ニュースが、今号で農業試験場ニュースから通算100号を迎えることとなりました。昨年度は創立100周年と大きな節目を迎えた研究所です。温故知新という意味も込め、創刊号からの総目次を掲載いたしました。ご参考になれば幸いです。

(栽培育種担当 佐藤 泰三)

徳島県立農林水産総合技術センター農業研究所ニュース総目次

この総目次は昭和45年12月発行の第1号から平成17年2月発行の第100号までの記事の題名、執筆者名、ページを収録したものである。なお、第1号から第88号までは「農業試験場ニュース」として発行された。

第1号(昭和45年12月)

発刊のことば	場長 鈴江 昇	1
農業試験場のあらまし	庶務係 板東 明	2
農業試験場移転建設の進ちょく状況	次長 佐々木成則	2
転換畑に適する夏型牧草 カラードギニアグラス	経営科 小山 弘	3
農業残留対策 一経過と今後の課題	病虫科 永井 洋三	4
促成イチゴの生産安定試験 一奇型果防止を中心に	園芸科 阿部 恭典	5
人の動き、主な会議、あれこれ		6
あとがき	山本 勉、野田 靖之	6

第2号(昭和46年3月)

これからの農業試験研究に望む	農林水産部長 平井 清士	1
傾斜地農業地域の再開発と草地造成	経営科 矢野 明	2
田植機用畑育苗の新技術	機械科 眞淵 敏治	3
チューリップ促成技術(米作転換行政に伴う)	園芸科 住友 昭利	4
大気汚染による農作物被害対策試験	農芸化学科 山本 英記	5
ウリ類の疫病による被害(昨夏の実態調査から)	病虫科 福西 務	5
新しい試験場建設のその後		6
人の動き、主な会議、あとがき		6

第3号(昭和46年7月)

試験研究のうつりかわり	次長 佐々木成則	1	
昭和46年度事業計画	次長 佐々木成則	2	
ぜんまいの栽培化(過去3年間のデータから)	池田分場 松岡 正信	3	
ニカメイチュウの薬剤防除と雨	かえて効果は高まる	病虫科 野口 義弘	4
ヨーロッパ研修の旅から(その1)	農業安全使用への対応	病虫科 山本 勉	5
新農試 石井町へ移転	庶務係 奥谷 公治	6	
人の動き、お知らせ、あとがき		6	

第4号(昭和46年10月)

農業試験場の落成を祝して	知事 武市 恭信	1
新農業試験場落成 豊かな農業への道標を		2
新しい農業試験場の概要		3
建物配置図、用地および建物		4
本館各階平面図		5
豊かな農業への創造 一県農業祭ひらく		6
ヨーロッパ研修の旅から(その2) イタリアの構造改善事業、		7
オランダの青果市場と温室試験場	病虫科 山本 勉	7
構内整備事業に1,200万円追加 9月補正予算承認		8
人の動き、あれこれ、あとがき		8

第5号(昭和47年1月)

技術研究への提言	経営科長 矢野 明	1
研究室めぐり(その1) 作物科を訪ねて	編集委員 山本	2
ヨーロッパ研修の旅から(その3) オランダの大干拓事業、		3
フランスのCEETA	病虫科 山本 勉	3

研究のシステム化	編集委員 野田	4
低温性病害が多発か ハウスやさい病虫害の発生現況と予想	病虫科	4
職員表彰、あれこれ、あとがき		4

第6号(昭和47年6月)

新場長の抱負	場長 立石	1
昭和47年度試験研究課題決まる!		2
阿讃山脈中核試験の概要		3
一四国中山間傾斜地帯における山地酪農の技術化		3
機構の一部改正される		4
人の動き、あれこれ、編集後記		4

第7号(昭和47年7月)

農作業の無人化・オートメ化	次長兼農業機械科長 眞淵 敏治	1
研究成果紹介		
ハウスイチゴの栽培に電照を!	園芸科 町田	2
袋貯留なら10時間が限度!!	農業機械科 高橋	2
研究速報		
稲紋枯病に卓効の新防除剤 バリダシン	病虫科 福西	3
稲縞葉枯病に関する試験速報	病虫科 加々美	3
研究、行政、普及の三位一体で伸びた徳島イチゴ	園芸科 阿部	3
地力診断速報(1) かんたんな穂肥の診断法		3
一ヨード反応による		3
研究解説		
稲づくりはこう変わる 直まき栽培	作物科 宮本	4
ブロイラー鶏ふんによるそ菜の生育障害に関する研究	園芸科 阿部	4
水稻の耐塩性とチソソならびに珪酸肥料との関係	化学科 川口	4
傾斜地農作業の機械化	機械科 佐竹	4
地域計画と個別経営の行政史	経営科 野田	4
訂正事項		4
編集後記	編集委員	4

第8号(昭和47年11月)

水田経営と稲作	作物科長 川人 浩	1
研究成果紹介		
ハウスキュウリの温度管理	園芸科長 阿部	2
つぎ木なすの管理	園芸科長 阿部	2
大根のマルチ栽培	池田分場長 山口	2
研究速報		
ネキリムシの産卵習性	病虫科 谷本	3
選別精度は3倍に向上!!	機械科 佐竹	3
イチゴハウス後作利用研究会	園芸科長 阿部	3
促成イチゴの栽培反省大会	園芸科長 阿部	4
地力診断速報(1) ECメータによる簡易塩分測定法	農芸化学科 黒島	4
研究解説		
イチゴのウイルスフリーに関する試験	園芸科 森本	5
チューリップの生理障害(色抜け・首折れ)などの発生原因究明とその防止に関する研究(第1報)	農芸化学科 黒島	5
そさい作播種の機械化(シーダー農法)	機械科長 眞淵	5
高度産業社会下の農業の機能	経営科 本庄	6

用語コーナー 生産費と経営費	経営科 野田	6
あれこれ		6
編集後記	野田	6

第9号(昭和48年3月)

野菜栽培と土壌	園芸科長 阿部 泰典	1
研究成果紹介		
ウリカワ防除試験の概要	作物科 酒井	2
研究速報		
タケノコ圃土壌の実態		
……農芸化学科 山本英記・後藤恭, 筍試験地 丸尾包治		3
キク白さび病の防除薬剤	病虫科 福西 務	3
ネギ病害虫の発生予察	病虫科 柏木	3
テッポウユリの休眠打破	園芸科 住友	4
地力診断速報(3) 良質レンコンを産する土壌条件		
……化学科長 後藤		4
研究解説		
高性能農業機械とその種類	機械科 佐竹	5
文献紹介	農芸化学科 黒島	5
紙巻タバコの有機塩素剤	病虫科 永井	5
スコレ社会の農業	経営科 三宅	5
昭和47年度農業技術功労賞受賞 裸麦優良品種		
「ユウナギハダカ」の育成	作物科長 川人	6
用語コーナー 線型計画法	経営科	6
編集後記		6

第10号(昭和48年10月)

研究のための研究	病虫科長 永井 洋三	1
研究成果紹介		
ニンニクのハウス栽培試験	園芸科 木藤	2
地力診断速報		
家畜糞尿と土壌還元	農芸化学科 黒島	3
こんにやく黄化葉の診断	農芸化学科 山本外	3
れんこん, 竹(孟宗竹)の耐煙性	農芸化学科 山本・井内	4
農業機械展ひらかる	経営科 野田	4
人のうごき		4
あとがき	編集委員 野田	4

第11号(昭和49年1月)

石油危機を迎えて	場長 立石	1
研究成果紹介		
ヒオウギ種子の発芽温度特性		2
タケノコ圃土壌の水分動態	農芸化学科 川口	2
研究速報		
ヨーロッパの施設園芸	園芸科長 阿部 泰典	3
実用化技術組立試験, 緑茶の製造試験		4
研究解説		
機械移植における苗の呼称について	作物科 川人	5
トラクタ諸元の用語	農業機械科 高橋	5
広域営農団地	経営科 野田	5
病菌シリーズ(レンコンの褐斑病菌)	病虫科 柏木	5
土壌溶液中微量元素の定量	化学科 井内	6
関西地域野菜試験打合せ会議の開催	園芸科 阿部	6
あれこれ		6
あとがき	編集委員 野田	6

第12号(昭和49年7月)

新場長の抱負	場長 眞淵 敏治	1
研究計画 研究のシステム化するすむ	49年度重点課題	2

成果の紹介

いちごの最新電照技術・確立する	電照技術試験の成果	
……園芸科 福岡 省二		2
病菌シリーズ(ねぎさび病菌)	病虫科 柏木弥太郎	3
ひおおぎの花芽分化時期とその発育過程を探る!!		
一生育と花芽の観察	園芸科 前田 浩典	3

研究速報

糸状菌による新病害とわかる えんどうすそ枯症の発生		
……病虫科 福西 務		4
高アルカリ土壌で亜硝酸多発生 クロロピクリン		
消毒土壌における亜硝酸の発生消長について		4
半湿田の復元は焼却・耕うん		
長期休耕田の稲作復元技術対策(雑草処理から機械移植まで)		
……機械科 高橋 恒水		5

研究解説

空中田植の試験はじまる	水稻のペーパーポット	
苗まき栽培とは	作物科 佐竹 治男	6
施設ハウスの投資限界	経営科 野田 靖之	6
人の動き, 施設の紹介		6

第13号(昭和49年11月)

土づくり経営	次長 矢野 明	1
研究成果の紹介		
オガ厩肥の研究すすむ 重点課題として取り組む!!		
……農芸化学科 黒島 忠司		2
硝酸態窒素中毒危険葉の判定法確立する		
一標準葉色帖利用	農芸化学科 井内 晃	3
研究速報		
一寸そらまめの品種改良すすむ!		
一陵西R-1・R-2が有望	園芸科 森本 嘉和	4
ツマゲロヨコパイのカーバメート剤に対する抵抗性の検定!		
一やはり感受性は低下していた	病虫科 野口 義弘	4
トマトの促成長期栽培用品種を採る		
一高知ファースト東光Kが有望	園芸科 町田 治幸	5
地下水位がかんしょの肥大と品質に及ぼす影響		
一地下水位が低い方が有利		
……経営科 野田靖之・化学科 山本英記		5

研究紹介

ステビアの研究	砂糖の300倍の甘さ	
……作物科 酒井 勇夫		6
病菌シリーズ(ねぎの黒班病菌)	病虫科 柏木弥太郎	6
あれこれ		
中核試験全国会議開かれる!	経営科 本庄 栄二	6
阿波藍の栄枯	作物科 酒井 勇夫	6

第14号(昭和51年1月)

これからの試験研究への対応	場長 眞淵 敏治	1
環境科新設される, 実用化技術組立試験の経過		2
研究成果の紹介		
研究進むサツマイモのかいよう病	病虫科 福西 務	3
研究速報		
暖地ニンニクの生態	一結球にかかわり深い低温処理	
……園芸科 阿部 恭典		4
ひろがりを見せる微量要素欠乏	農芸化学科 後藤 恭	4
新除草剤「ベンタゾン剤」の紹介		
(水田多年生雑草対象薬剤)	作物科 酒井 勇夫	5
水稻及び麦類奨励品種の改廃	作物科長 小山 弘	6
農林省依頼研修を終えて	経営科 本庄 栄二	6
あとがき		6

第15号(昭和51年6月)

見直される米麦のタンパク質……………作物科長 小山 弘…1
 研究計画 昭和51年度試験研究事業の概要
 ……次長 矢野 明…2
 成果の紹介
 レンコンの養分吸収……………農芸化学科 後藤 恭…3
 自脱型コンバインによるビール麦の収穫法
 ……農業機械科 野本 陽…3
 ネキリムシ類の生態と防除……………病虫科 野口 義弘…4
 人の動き、あとがき……………4

第16号(昭和51年12月)

本県土壌の特色……………農芸化学科長 後藤 恭…1
 研究成果の紹介
 1 ハウス病害虫の省力防除「フローダスト」
 ……病虫科 山本 勉…2
 2 ハウス、メロンの品種選定と連作障害対策
 ……園芸科 野田 靖之…3
 用語の解説……………農芸化学科 後藤 恭…4
 農林省依頼研修を終えて……………農芸化学科 川口 公男…4
 あれこれ……………4
 あとがき……………福岡 省二…4

第17号(昭和52年5月)

三種の神器……………場長 矢野 明…1
 昭和52年度研究計画 ……次長 後藤 恭…2
 研究成果の紹介
 1 箱育苗のごま葉枯病対策 高い土壌施肥の効果
 ……病虫科 山本 勉, 金磯泰雄…3
 2 急激に発達したツマグロヨコバイの薬剤抵抗性
 ……病虫科 野口 義弘…3
 3 連作砂質畑の手入砂と微量要素
 ……農芸化学科 山本 英記…4
 福西務氏に学術奨励賞……………病虫科長 山本 勉…4
 人の動き……………4
 あとがき……………福岡 省二…4

第18号(昭和52年10月)

薬剤抵抗性害虫と耐性菌の急増を憂う
 ……病虫科長 山本 勉…1
 研究成果の紹介
 1 県下ハウスにも高率に出現 トップジンM耐性灰色かび病菌
 ……病虫科 山本 勉, 金磯泰雄…2
 2 特産野菜の労働 作業強度と臨時雇用賃金
 ……経営科 三宅 節…2
 3 ハウス白イボきゅうりの品種と栽培管理
 ……園芸科 町田 治幸…3
 農産相談室
 水稻新品種「フジヒカリ」について ……作物科…4
 県産ハウスメロンの品種は……………園芸科…4
 紋枯病の防除に石油は効くか……………病虫科…4
 キク栽培の土づくり……………園芸科 農芸化学科…4
 あとがき……………福岡 省二…4

第19号(昭和53年2月)

農業機械化へのみち……………機械科長 原 春雄…1
 研究成果の紹介
 1 有望視されるキクの新品種 “阿波の娘”
 ……園芸科 前田 浩典…2

2 育苗用有機物資材におが屑堆肥を
 ……環境科 黒島 忠司…2
 3 ナス黒枯病に対する夏期のハウス密閉による消毒効果
 ……病虫科 福西 務…3
 4 露地野菜の生産安定…阿部泰典, 山本英記, 野田靖之…3
 農林省依頼研修を終えて……………病虫科 谷本 温暉…4
 あれこれ
 全日本そ菜原種審査会 一東洋系ほうれん草審査一
 ……園芸科 野田 靖之…4
 あとがき……………福岡 省二…4

第20号(昭和53年5月)

輪作による傾斜畑の地力向上……………池田分場長 川人 浩…1
 昭和53年度研究計画
 水田再編対策と山間傾斜地の開発利用を柱に
 ……次長 後藤 恭…2
 研究成果の紹介
 ダイコンのハウス早どり栽培 高い市場性に人気
 ……園芸科 阿部 恭典…3
 ホウレンソウの根腐れ 症状と病原…病虫科 福西 務…3
 研究速報
 水稻稚苗育苗における緑化法
 ー90%遮光フィルムの利用ー ……作物科 佐竹 治男…4
 改良型ガスクロマトグラフの試作……………環境科 永井 洋三…4
 あれこれ 観賞花木園を移設, 人の動き……………4
 あとがき……………野本 陽…4

第21号(昭和53年10月)

大型プロジェクト研究「地域農業複合化開発試験」の意義
 ……経営科長 柏木弥太郎…1
 研究成果の紹介
 チューリップ促成栽培の温度管理……………園芸科 住友 昭利…2
 オオムギ斑葉病に対する種子消毒……………病虫科 金磯 泰雄…2
 洋ニンジン畑の生育障害改善 ー有機物の積極的施用と
 深耕が急務ー……………農芸化学科 川口 公男…3
 促成イチゴ栽培反省大会から ー減収原因は異常気象ー
 ……園芸科 福岡 省二…3
 研究速報 ゴボウの早出し対策……………園芸科 野田 靖之…4
 あれこれ
 大豆用機械実演展示会開かる
 ー機械・栽培両面からの対応が必要ー……………農業機械科…4
 施設野菜中核試験開始……………園芸科…4
 サイパンから園芸留学生……………阿部 泰典…4
 学会, ブロック会議相つづ……………4
 あとがき……………野本 陽…4

第22号(昭和54年2月)

新しい害虫防除へのアプローチ……………専門研究員 野口 義弘…1
 生産安定のカギ握る害虫防除 過繁茂みられず, 密植で
 収量を確保(水田転換畑大豆の生産安定技術確立に
 関する研究) ……次長 山本 勉…2
 研究速報
 水稻新品種「ミネニシキ」の紹介 ……作物科 佐竹 治男…4
 研修を終えて
 花きの生育開花調節法……………園芸科 前田 浩典…4
 農業代謝物の分析法……………環境科 井内 晃…4
 あれこれ 農試OB会発足……………次長 後藤 恭…4
 あとがき……………野本 陽…4

第23号(昭和54年5月)

農家の期待と信頼に応えるために……………場長 山本 勉…1
昭和54年度研究計画 ……………次長 後藤 恭…2
研究成果の紹介

高まる家畜ふん尿利用への認識
複合化試験実態調査から……………農芸化学科 黒島 忠司…3
施設果樹の経済性 露地より高い収益性
……………経営科 本庄 栄二…3

研究速報

タケノコの黒変症と土壌改良
……………農芸化学科 川口公男, 筈試験地 丸尾包治…4

あれこれ

“育種科”新設, 研究成果発表会 ……………4
専技試験に2名合格……………4
人の動き 定期異動, 図書委員長, 環境整備委員会発足……………4
あとがき……………野本 陽…4

第24号(昭和54年10月)

新しい課題への対応 育種科の業務内容と将来
……………育種科長 佐竹 治男…1

研究成果の紹介

麦の作期移動の可能性 夏播麦の栽培と特徴
……………作物科 馬淵 敏夫…2
温度管理とダイコンの花芽分化
昼温の高低と夜低温感応の消去……………園芸科 安淵 次郎…2

研究速報

新開発の緩効性カリ肥料 けい酸カリの施用効果
……………農芸化学科長 林 甚太郎…3
夏秋トマトの雨よけ栽培 品質向上・増収に効果
……………池田分場 浦上 好博…3
白イボキュウリのつり下げ栽培 省エネ技術として期待
……………海南分場 古藤 英司…4

あれこれ

今年も海外研修生来る……………次長 阿部 泰典…4
園芸学会中・四国支部大会開かる……………次長 阿部 泰典…4
学会・ブロック会議……………4
あとがき……………野本 陽…4

第25号(昭和55年2月)

花き試験研究への要望と対応……………専門研究員 住友 昭利…1
研究成果の紹介

転換畑におけるハトムギ栽培 保健食や飼料に好適
……………作物科長 小山 弘…2
新病害「ニンジン斑点細菌病」その病状と防除対策
……………病虫科 福西 務…2

研究情報

促成トマトの無加温栽培試験開始
地中熱交換方式を利用して……………園芸科 福岡 省二…3
地力追跡調査始まる 県下240カ所で行実施
……………農芸化学科 川口 公男…3

研修を終えて

専門技術員新任者研修
……………園芸科 町田治幸・農芸化学科 山本英記…4
農林水産省依頼研修……………農業機械科 野本 陽…4

あれこれ

昭和54年度全国農業関係試験場長会 ……場長 山本 勉…4
関西農業経済学会四国支部研究会……………経営科 本庄 栄二…4
日本育種学会四国談話会……………育種科長 佐竹 治男…4
あとがき……………野本 陽…4

第26号(昭和55年6月)

農業情勢の変化と試験研究の対応 最近の試験研究課題の
動向と特徴……………次長 阿部 泰典…1
昭和55年度研究計画 ……………次長 阿部 泰典…2
研究情報

チビクロバネキノコバエの発生と防除
……………病虫科 谷本 温暉…3
ホタルイの発生と防除……………作物科 酒井 勇夫…3
農試あれこれ “野菜科” “花き科” 新設, 研究成果発表会 ……4
人の動き, 各種委員会の改任……………4
あとがき……………酒井 勇夫…4

第27号(昭和55年11月)

土づくりの問題点と課題
……………農芸化学科 専門研究員兼科長 林 甚太郎…1

研究成果の紹介

施設野菜の省エネルギー栽培に関する研究
……………野菜科長 町田 治幸…2

《山間野菜に関する研究》

輪作による野菜の生産安定……………池田分場長 川人 浩…3
山間高冷地に見るダイコン萎黄病の発生と今後の対策
……………病虫科 金磯 泰雄…3
大豆畑の鳩害防除……………農業機械科 野本 陽…4
農試あれこれ アオノリュウゼツランの開花……………4
あとがき……………酒井 勇夫…4

第28号(昭和56年3月)

施設野菜の省エネルギー問題……………野菜科長 町田 治幸…1
研究成果の紹介

飼料用いね(えさ米) 一日印交配種に期待—
……………作物科長 小山 弘…2
電照ギクの省エネ栽培 2~3月出荷秋ギク苗の低温
処理と夜温管理……………花き科 前田 浩典…2
《大豆の増収と生産の安定を目指して》—55年度の成果—
早熟で麦作体系に適する「フクユタカ」, 地域収量差の
原因は?, 連作と窒素の施用効果……………試験担当 作物科…3
大きいカメムシの被害, 着莢期に集中……………試験担当 病虫科…4
大豆栽培の機械化ほぼ軌道に……………酒井 勇夫…4
大豆の不整地播栽培……………農芸化学科長 林 甚太郎…4

昭和55年の冷夏の実態と被害

1 気象条件……………5
2 水稻の生育への影響……………作物科…5
3 稲いもち病の発生と防除の実績……………病虫科…5

研究情報

増加してきたニカメイチュウ 薬剤抵抗性もつく
……………病虫科長 野口 義弘…6
小松島市田野地域の実態調査終わる
—地域農業複合化推進試験研究—……………経営科 本庄 栄二…6
あれこれ 専技試験合格2名……………6
あとがき……………酒井 勇夫…6

第29号(昭和56年5月)

地方農試と野菜の育種 県の農業特産物を育成するために
……………次長 阿部 泰典…1
昭和56年度試験研究計画 ……………次長 阿部 泰典…2

研究成果の紹介

スピードスプレーヤ(SS)のオペレータに対する農薬の付着防止
……………環境科 井内 晃…3

転換畑における飼料作物の高位生産流通技術の確立
 (草種および品種の選定)……………作物科 馬淵 敏夫… 3
 あれこれ
 《雑感》……………農芸化学科 黒島 忠司… 4
 55年度の来場者 …………… 4
 人の動き…………… 4
 あとがき……………酒井 勇夫… 4

第30号(昭和56年10月)

阿波笥……………専門研究員 丸尾 包治… 1
 研究成果の紹介
 年末出荷キク“秀芳の力”の再電照方法
 ……………花き科 前田 浩典… 2
 促成ナスの温度管理……………野菜科 隔山 普宣… 2
 飼料用稲の除草剤に対する感受性
 品種と除草剤の種類との関係……………作物科 広田 年信… 3
 耐性菌出現に黄信号 -灰色かび病防除新薬-
 ……………病虫科 加々美好信, 中西謙二… 3
 あれこれ
 地域複合部会 徳島県で開催……………経営科長 柏木弥太郎… 4
 80年史編纂にむけて 資料収集スタート
 ……………場長 山本 勉… 4
 シルバー大学 園芸講座始まる……………次長 阿部 泰典… 4
 あとがき……………酒井 勇夫… 4

第31号(昭和57年2月)

山間畑地域における野菜栽培の現状と問題点
 ……………専門研究員 長居 勝美… 1
 研究成果の紹介
 地中熱交換型温室の環境特性
 -外気温との差11~13℃を確保-
 ……………野菜科 川田 富雄… 2
 ハウスメロン品種比較……………野菜科 隔山 普宣… 2
 ハウスの除湿に稲わら利用
 好湿性病害の防除にすぐれた効果…病虫科 金磯 泰雄… 3
 トピックス
 徳島にも侵入した新害虫 ミナミキイロアザミウマ
 ……………病虫科 谷本 温暉… 4
 動きだした土壌更新調査事業 第1年目の成果
 ……………次長 阿部 泰典… 4
 あとがき…………… 4

第32号(昭和57年5月)

新年度予算と重点研究……………場長 山本 勉… 1
 昭和57年度試験研究課題 ……………次長 阿部 泰典… 2
 研究成果の紹介
 水稻新品種「オオセト」……………育種科長 佐竹 治男… 3
 転換畑大豆の低収要因……………作物科長 小山 弘… 3
 転作大豆の乾燥法改善……………農業機械科 野本 陽一… 3
 研修を終えて
 植物の栄養吸収生理(第7部研修)
 ……………農芸化学科 岡田 俊美… 4
 野菜の収量と気象条件(農林水産省依頼研修)
 ……………池田分場 川下 輝一… 4
 植物ウィルス病の分類同定(第7部研修)
 ……………病虫科 加々美好信… 4
 農試あれこれ
 56年度来場者数 …………… 4
 黒島主任研究員に全国農業試験場長会賞

……………場長 山本 勉… 4
 人の動き 定期異動, 各種委員会新委員…………… 4
 あとがき……………岡田 俊美… 4

第33号(昭和57年10月)

県南農業における海南分場の役割…海南分場長 福岡 省二… 1
 研究成果の紹介
 秋まきトンネルダイコンの換気法試験
 -花成抑成と根の肥大・抽台遅延のための温度管理-
 ……………野菜科長 町田 治幸… 2
 ブバルディアの生育開花調節……………花き科 前田 浩典… 3
 ハウス内稲わら施用による病害防除(続報)
 水分吸収量はt当たり150Lにも ……病虫科 金磯 泰雄… 3
 第Ⅱ期に入ったプロジェクト研究
 大豆-小麦体系における大豆の早播多収技術の確立
 ……………作物科長 小山 弘… 4
 高位地域農業複合化試験研究……………経営科 三宅 節… 4
 トピックス
 イネの新害虫イネミズゾウムシ 本県にもついに発生!!
 ……………病虫科長 野口 義弘… 4
 あとがき……………岡田 俊美… 4

第34号(昭和58年2月)

本県の茶業の現状と課題……………池田分場 細川幸之助… 1
 研究成果の紹介
 芳玉イチゴのポット育苗……………海南分場長 福岡 省二… 2
 果樹用農業処理袋と農薬残留……………環境科 井内 晃… 2
 試験研究情報
 中山間地におけるタマネギの秋どり栽培
 ……………池田分場 川下 輝一… 3
 地力保全対策診断事業……………農芸化学科 川口 公男… 3
 研修を終えて
 施設野菜の光合成及び養分測定技術…野菜科 古藤 英司… 4
 施設の温度制御(農林水産省依頼研修)
 ……………病虫科 金磯 泰雄… 4
 農試あれこれ
 職場研修の実施……………研修委員長 柏木弥太郎… 4
 マイコンの利用, 池田分場改築工事進む…………… 4
 あとがき……………岡田 俊美… 4

第35号(昭和58年4月)

池田分場に新庁舎完成……………場長 山本 勉… 1
 昭和58年度試験研究課題 ……………次長 阿部 泰典… 2
 池田分場新庁舎のあらまし…次長兼池田分場長 川人 浩… 3
 このたび統合・設置された機械研修係の紹介
 ……………次長 原 春雄… 3
 農試あれこれ
 徳島県立農業試験場に改称, 80年史編纂作業進む …………… 4
 昭和57年度来場者数 5,317名, 専技・改研試験合格者 …………… 4
 人の動き 人事異動, 昇任, 各種委員会…………… 4
 あとがき……………広田 年信… 4

第36号(昭和58年9月)

組織培養とウィルスフリー株の養成・利用
 ……………次長 阿部 泰典… 1
 研究成果の紹介
 マルチ畦内消毒による土壌病害防除技術
 ……………病虫科 加々美好信… 2

イチゴうどんこ病の発生生態と防除法
……場長 山本 勉, 病虫科 金磯泰雄… 2

研究情報

砂地畑の土壌水分……農芸化学科 岡田 俊美… 3
新しく始まった地域プロジェクト研究 山間傾斜地帯への
野菜の導入・定着技術……次長 阿部 泰典… 4
新害虫の発生状況……病虫科 谷本 温暉… 4
研修を終えて
ヨーロッパの花き生産と消費動向(第8部研修)
……花き科長 住友 昭利… 4
植物の組織培養技術(農林水産省依頼研修)
……野菜科 小川 純… 4
あとがき……広田 年信… 4

第37号(昭和59年1月)

タイムとタイド……場長 山本 勉… 1
研究成果の紹介
オモトの生育障害の実態と対策
1 うずまき症と土壌対策……農芸化学科 林 捷夫… 2
2 炭そ病の発生実態と薬剤防除…病虫科 加々美好信… 2
57~58年冬に多発生したムギうどんこ病の効率的防除
……病虫科 金磯 泰雄… 3
茶樹のせん枝による生葉の良質化…池田分場 細川幸之助… 3
研究速報 そば新品種「みやぎきおおつぶ」
……次長兼池田分場長 川人 浩… 4
農試あれこれ
葉ネギ九条太原種審査会場で開催
……野菜科長 町田 治幸… 4
山本場長に農業技術功労賞…… 4
管理係職員一同職員表彰を受賞,「80年史」印刷にかかる… 4
あとがき……広田 年信… 4

第38号(昭和59年5月)

最近の農業情勢と試験研究……場長 阿部 泰典… 1
昭和59年度試験研究課題 ……次長 永井 洋三… 2
研究成果の紹介
水稻新品種「コガネマサリ」の紹介 育種科長 佐竹 治男… 3
大豆新品種「アキシロメ」の紹介 ……作物科 広田 年信… 3
暖地用新テッポウユリ有望品種……花き科長 住友 昭利… 3
昭和59年度機械研修計画 …… 4
農試あれこれ
専技合格者2名, 昭和58年度来場者数 7,647名 …… 4
人の動き 人事異動, 昇任, 各種委員会…… 4
あとがき……喜田 直康… 4

第39号(昭和59年10月)

ハス栽培における主要害虫と問題点
……次長兼病虫科長 以西 信夫… 1
研究成果の紹介
降雨による農薬の流亡……環境科 井内 晃… 2
研究情報
夏秋どりイチゴの育成と栽培……池田分場 川下 輝… 3
秋まきトンネルダイコンの播種期ー耐病総太りの
播種適期と遅まき限界ー……野菜科長 町田 治幸… 3
研修を終えて
イネの新育種法(第7部研修)……作物科 広田 年信… 4
農試あれこれ
阿部場長に研究功労賞…… 4
気象観測装置が更新……次長 永井 洋三… 4

地域複合化試験・現地検討会開催される…… 4
あとがき……喜田 直康… 4

第40号(昭和60年3月)

土耕と水耕……場長 阿部 泰典… 1
研究成果の紹介
水稻の湛水土壤中直播栽培法……農業機械科 野本 陽… 2
水稻倒伏軽減剤の効果と収量に及ぼす影響
……作物科 藪内 和男… 2
研究情報
多湿ハウスにおける好湿性病害の防除
資材の有効利用並びに留意点……病虫科 金磯 泰雄… 3
メタン発酵による消化汚泥堆肥の利用
……農芸化学科 黒島 忠司… 3

農試あれこれ

透過形電子顕微鏡設置される……病虫科 加々美好信… 4
小山科長植調より表彰される, 建設された新施設の紹介… 4
あとがき……喜田 直康… 4

第41号(昭和60年5月)

当面の課題……場長 永井 洋三… 1
昭和60年度試験研究課題 ……次長 川人 浩… 2
研究成果の紹介
オモトノアザミウマの発生生態と防除
……病虫科 加々美好信… 3
吉野川中流地帯における大規模畜産団地を中核とした複合化
農業の展開方式(高位地域複合)……経営科 柏木弥太郎… 3
60年度機械研修計画 ……機械研修係… 4
情報企画科新設…… 4
農試あれこれ 専技合格者, 59年度来場者数 7,977名 …… 4
人の動き 人事異動, 昇任…… 4
あとがき……貞野 光弘… 4

第42号(昭和60年11月)

現場に学ぶ……次長兼病虫科長 谷 幸泰… 1
研究成果の紹介
ミヤコワスレ障害花の原因と対策……花き科 浦上 好博… 2
研究情報
スイートコーン早どりトンネル栽培の換気法
……野菜科 板東 一宏… 3
徳島県の地力……農芸化学科 川口 公男… 3
研修を終えて
果菜類の簡易養液栽培(農林水産省依頼研修)
……野菜科 板東 一宏… 4
花き類の脱春化作用(農林水産省依頼研修)
……花き科 浦上 好博… 4
農試あれこれ 気象観測データ処理装置完成…… 4
あとがき……貞野 光弘… 4

第43号(昭和61年3月)

先見性をもって……次長兼池田分場長 伊丹 寛… 1
研究成果の紹介
転換畑大豆の不耕起による早播き栽培
……作物科長 小山 弘… 2
中山間地におけるタマネギの秋どり栽培技術
……池田分場 川下 輝… 2
研究情報
蒸散器法による薬剤のハウス内分布
……環境科長 林 捷夫… 3

農業機械化の課題……………次長機械研修担当 林 甚太郎… 3
 農試あれこれ
 イチゴウイルスフリー株の配布開始…………… 4
 徳島県農林水産関係バイオテクノロジー推進協議会
 作物・野菜分科会開催…………… 4
 あとがき……………貞野 光弘… 4

第44号(昭和61年5月)

新年度予算と重点課題……………場長 川人 浩… 1
 昭和61年度試験研究課題 ……次長 鳥羽 清… 2
 研究成果の紹介
 水稻奨励品種候補「ナツヒカリ」「黄金晴」
 ……育種科長 佐竹 治男… 3
 トンネルニンジンの換気法……………野菜科 古藤 英司… 3
 新地域プロジェクト研究スタート
 高速輸送体系に適合した四国集約型園芸のための技術開発
 ……野菜科長 町田 治幸… 4
 農試あれこれ
 トンネル五寸ニンジン原種審査会 当場で開催される
 ……野菜科長 町田 治幸… 4
 60年度来場者数 7,212名…………… 4
 人の動き 人事異動, 昇任…………… 4
 あとがき……………広田 年信… 4

第45号(昭和61年10月)

拡大する転作への研究課題……………次長 鳥羽 清… 1
 研究成果の紹介
 おが屑堆肥によるタケノコの早掘り栽培
 ……阿南筍試験地 丸尾 包治… 2
 コーティング肥料による促成キュウリの施肥改善
 ……海南分場長 山下 久男… 2
 夏秋どりイチゴの鉢受時期別苗質と生育・収量
 ……池田分場 川下 輝… 3
 トピックス
 ジャンボタニシの発生広がる……………病虫科 脇屋 春良… 4
 研修を終えて
 情報処理特別研修(第7部研修)… 情報企画科 高木 和彦… 4
 農試あれこれ
 夏秋どりイチゴ「みよし」品種登録現地調査行われる
 ……池田分場長 柏木弥太郎… 4
 四国農業問題別研究会開催される…………… 4
 あとがき……………広田 年信… 4

第46号(昭和62年3月)

山間農業の振興と試験研究の役割
 ……次長兼池田分場長 柏木弥太郎… 1
 研究成果の紹介
 夏どりホウレンソウの萎凋病防除
 ……病虫科 加々美好信, 貞野光弘… 2
 砂土におけるダイコンの生育と地下水位
 ……農芸化学科 岡田 俊美… 2
 コーティング肥料による促成イチゴの施肥改善
 ……野菜科 小川 純… 3
 研究情報 ブバルディア切花に対する延命剤の効果
 ……花き科 浦上 好博… 3
 研修を終えて
 超多収稲の生理生態的機能の解明および地下部の
 形態と機能(第7部研修)……作物科 藪内 和男… 4
 農試あれこれ

研究紹介ビデオ作成中…………… 4
 徳島県農林水産関係バイオテクノロジー推進会議
 作物・野菜分科会開催…………… 4
 川下主任研究員職員表彰を受賞, 海南分場圃場整備完成………… 4
 あとがき……………広田 年信… 4

第47号(昭和62年5月)

地域農業の活性化に應えるために……………場長 鳥羽 清… 1
 昭和62年度試験研究課題 ……次長 住友 昭利… 2
 研究成果の紹介
 トマトの循環式ロックウール栽培における培養液管理
 ……野菜科 板東 一宏… 3
 茶のネットがけ摘採による省力化と品質向上
 ……池田分場 細川幸之助… 3
 農試あれこれ
 砂地畑の網室が完成…………… 4
 秋まきトンネルダイコン原種委員会 当場で開催される
 ……野菜科 古藤 英司… 4
 人の動き 人事異動, 昇任…………… 4
 あとがき……………作物科 藪内 和男… 4

第48号(昭和62年11月)

「地域水田農業確立試験研究」の推進について
 ……次長 住友 昭利… 1
 研究成果の紹介
 夏どりイチゴ「みよし」の品種特性
 ……池田分場 川下 輝… 2
 ビール麦有望系統「新田二条9号」の紹介
 ……作物科 高源 昭雄… 2
 研究情報
 圃場整備実施水田に対する暗渠及び土層改良の効果
 ……農芸化学科 葉柳 清照… 2
 網被覆によるキャベツ害虫の侵入防止効果
 ……病虫科 脇屋 春良… 3
 研修を終えて
 施設園芸の新資材及び新養液栽培に関する調査研究
 (海外研修)……野菜科長 町田 治幸… 4
 土壌調査データベースの構築と活用(第7部研修)
 ……農芸化学科 岡田 俊美… 4
 農試あれこれ ライシメーターによる連作砂地畑の
 生産力解析試験開始……………農芸化学科… 4
 あとがき……………作物科 藪内 和男… 4

第49号(昭和63年3月)

砂地畑の課題……………次長兼病虫科長 谷 幸泰… 1
 研究成果の紹介
 ハス田におけるアブラムシの発生生態と防除
 ……病虫科 脇屋 春良… 2
 シンビデュウム奇形花の発生原因と防止対策
 ……花き科 浦上 好博… 2
 促成イチゴロックウール栽培の適品種
 ……野菜科 隔山 普宣… 3
 研究情報 連作砂地畑土壌の微細粒子洗い流し効果
 ……農芸化学科 岡田 俊美… 3
 研修を終えて
 水稻における新しい生理活性物質の作用特性について
 (農林水産省依頼研修)……作物科 高源 昭雄… 4
 昭和62年度バイオ関連研修実績 …… 4

農試あれこれ

- 弱毒ウイルス研究用ガラス温室完成…病虫科 加々美好信…4
- 野菜科職員一同職員表彰を受ける……………4
- あとがき……………藪内 和男…4

第50号(昭和63年6月)

- 高付加価値化農業への技術開発……………場長 鳥羽 清…1
- 昭和63年度試験研究課題……………次長 住友 昭利…2
- 研究成果の紹介
 - ロックウール栽培トマト・キュウリの収益性……………経営科長 本庄 栄二…3
 - 普通期コシヒカリの安定多収施肥法…作物科 藪内 和男…3
 - ドリフトレスノズルによる農薬散布者への被曝量軽減対策……………環境科長 井内 晃…4
- 農試あれこれ 丸尾専門研究員に研究功労賞……………4
- 人の動き 人事異動,昇任……………4
- あとがき……………隔山 普宣…4

第51号(昭和63年10月)

- 有機農法と土づくり……………専門研究員兼農芸化学科長 山本 英記…1
- 研究成果の紹介
 - 鉄欠乏水田の分布と含鉄資材の施用効果……………農芸化学科 葉柳 清照…2
- 研究情報
 - 春どりダイコンに対するべたがけ資材の利用法と効果……………野菜科 古藤 英司…3
 - タデアイを加害するカツオゾウムシの生態と防除……………病虫科長 谷本 温暉…3
 - 県南における促成キュウリの畦立法改善……………海南分場長 山下 久男…4
- 農試あれこれ
 - 赤米の栽培……………作物科長 野本 陽一…4
 - 試験場案内ビデオ完成……………情報企画科 高木 和彦…4
- あとがき……………隔山 普宣…4

第52号(平成元年3月)

- 農業・農村地域の情報化に向けて……………専門研究員兼情報企画科長 林 捷夫…1
- 研究成果の紹介
 - NFT栽培における春夏トマトの適品種……………野菜科 板東 一宏…2
 - 夏どりメロンの定植期と品質……………池田分場 河野 充憲…2
 - 大輪グラジオラスの自家養成球利用促成切花……………花き科長 前田 浩典…3
- 研究情報
 - ハウレンソウの生育診断予測…情報企画科長 林 捷夫…3
- 研修を終えて 天敵微生物による害虫防除(第7部研修)……………病虫科 脇屋 春良…4
- 昭和63年度バイテク関連研修実績……………4
- 農試あれこれ 秋まきハウレンソウ原種審査会開催される……………4
- あとがき……………隔山 普宣…4

第53号(平成元年5月)

- 「新鮮共感基地-徳島」づくりの一翼を担おう……………場長 安丸 徳広…1
- 平成元年度試験研究課題……………次長 住友 昭利…2

研究成果の紹介

- 苗条原基法によるヒオウギ優良種苗の大量増殖……………花き科 浦上 好博…3
- 研究情報 イチゴの炭そ病防除試験と発生原因調査……………病虫科 広田 恵介…4
- 最近の話題 農業問題について考える……………環境科長 井内 晃…5
- 研修を終えてユリ科植物の細胞融合による遠縁雑種の作出(第7部研修)……………池田分場園芸科 川村 泰史…6
- 農試あれこれ
 - 池田分場に2科制誕生……………次長兼池田分場長 谷 幸泰…6
 - 平成元年度機械研修計画……………6
 - 人の動き 人事異動,昇任……………6
- あとがき……………隔山 普宣…6

第54号(平成元年10月)

- 中山間農業活性化にむかって……………次長 住友 昭利…1
- 研究成果の紹介
 - 社会経済的農業生産条件からみた転作農業の特性と方向性……………経営科 武知 毅…2
 - 促成キュウリの整枝・仕立併用法による高品質生産……………海南分場 山下 久男…3
 - トンネル栽培スイートコーン(バイカラー系)の品種選定……………野菜科 井内 美砂…3
- 研究情報
 - ビール麦「とね二条」を奨励品種に採用……………作物科 野本 陽一…4
 - タケノコの冬どり栽培……………阿南筍試験地 谷本 温暉…4
 - ニンジン畑の土壤条件と横しま症……………農芸化学科 黒田 康文…5

新規研究課題の紹介

- 新被覆資材利用による暖地型冬・春野菜の新型型開発と高品質生産技術……………野菜科 隔山 普宣…6
- 有機農法の開発試験……………次長 林 甚太郎…6
- 農試あれこれ
 - 上手な図書室と文献の利用……………情報企画科 林 博昭…6
- あとがき……………隔山 普宣…6

第55号(平成2年3月)

- 稲をめぐる最近の課題……………次長兼育種科長 林 甚太郎…1
- 研究成果の紹介
 - 組織培養によるシオデの大量増殖……………池田分場園芸科 川村 泰史…2
 - 野菜跡地の残存無機態窒素の推移と低減対策……………農芸化学科 葉柳 清照…3
 - 春どりジャガイモにおけるミニハウス内の被覆資材と被覆法……………野菜科 隔山 普宣…3
- 研究情報
 - 早期栽培コシヒカリの早熟化技術……………作物科 野本 陽一…4
 - 対抗植物によるネコブセンチュウの防除……………病虫科 喜田 直康…5
 - マイナー作物と農薬……………環境科 井内 晃…5
- 研修を終えて
 - 輪換田土壌の養分動態特性及び診断基準……………農芸化学科 葉柳 清照…6
 - サツマイモ立枯病菌の分離及び同定方法……………病虫科 貞野 光弘…6
- 農試あれこれ
 - 2つの石碑建立……………場長 安丸 徳広…6

養液栽培研究会本県で開催……………野菜科 隔山 普宣…6
あとがき……………隔山 普宣…6

第56号(平成2年7月)

農産物高品質化への対応……………場長 住友 昭利…1
平成2年度試験研究課題……………2
研究成果の紹介

サツマイモの葉縁褐変症状の発生要因とその対策
……………農芸化学科 黒田 康文…3
シンビジウムの夏季の遮光程度……………花き科 浦上 好博…4
トンネルオクラの摘葉による高品質安定生産
……………海南分場 山下 久男…4

研究情報

水稻の新形質品種と特性……………作物科 野本 陽…5
新規事業「中山間農業振興実用化試験」始まる
……………特作科 河野 充憲…5
ビデオで解説“ロックウール栽培”情報企画科 林 博昭…6
農試あれこれ 平成2年度機械研修計画……………6
人の動き 人事異動,昇任……………6
あとがき……………農芸化学科 葉柳 清照…6

第57号(平成2年11月)

養液栽培の確かな定着と新たな展開方向…次長 町田 治幸…1
研究成果

循環式ロックウール栽培における春夏作トマトの培養液管理
……………野菜科 板東 一宏…2
タラふかし栽培における穂木斜め挿し法
……………特作科 河野 充憲…3

研究情報

ニンジン根部障害の発生要因について
……………農芸化学科 豊成 傑…3
大型ビニールトンネルの利用によるグラジオラスの開花促進
……………花き科 高木 和彦…4
ハウレンソウベと病菌の新レース発生
……………病虫科 貞野 光弘…5
有機質肥料を主体とした春どりキャベツの安定栽培
……………野菜科 近藤 千利…5

研修を終えて

栽培条件が葉菜類の内部品質に及ぼす影響
……………野菜科 隔山 普宣…6
土壌の団粒形成に及ぼすフェノール性物質と
微生物の影響……………農芸化学科 黒田 康文…6
あとがき……………葉柳 清照…6

第58号(平成3年3月)

農作業安全対策……………次長(機械研修担当) 堀金 正巳…1
研究成果の紹介

水稻主要品種の生育ステージ予測……………作物科 広田 年信…2
野菜跡水田土壌の窒素肥沃度とコシヒカリの生育
……………農芸化学科 葉柳 清照…3
春どりブロッコリーにおける被覆資材の利用法
……………野菜科 隔山 普宣…4
有機農産物流通の現状と方向性……………経営科 武知 毅…4

研究情報

ヤマモモ、シロウリに対する農薬の適用拡大
……………環境科 谷 博…5
研修を終えて ガスクロマトグラフ質量分析計を用いた
農薬の分析法……………谷 博…6
農試あれこれ……………6

あとがき……………葉柳 清照…6

第59号(平成3年6月)

21世紀農業への対応……………場長 住友 昭利…1
平成3年度試験研究課題……………次長 玉井 克郎…2
研究成果の紹介

一寸ソラマメの早出し栽培法……………野菜科 川下 輝…3
ロックウールトマトの抑制作型における生育初期の
培養液管理……………野菜科 板東 一宏…3
有機農業の経営実態と問題点……………経営科 本庄 栄二…4
研究情報 新野菜チコリー……………育種科 井内 美砂…5
農試あれこれ

平成3年度機械研修計画……………機械研修係 遠藤 蕃…6
人の動き 人事異動,昇任……………6
あとがき……………花き科 高木 和彦…6

第60号(平成3年10月)

農業の「いま」を直視して……………次長 玉井 克郎…1
研究成果の紹介

トンネルニンジンの品種比較……………海南分場 兼市 良徳…2
春カブにおけるミニハウスの温度管理とべたがけ
資材の利用法……………野菜科 隔山 普宣…2
電照ギク‘秀芳の力’の系統選抜……………花き科 浦上 好博…3

研究情報

砂地畑のサツマイモ栽培における微細粒子の除去効果
……………農芸化学科 黒田 康文…4
水稻新品種「ハナエチゼン」の紹介…作物科 野本 陽…5
展着剤のハス葉への影響調査 ハス褐斑病の地上防除に
向けて……………病虫科 金磯 泰雄…5
研修を終えて
育苗容器の形状と培土の物理性……………花き科 高木 和彦…6
農試あれこれ
パソコン通信と文献検索 –本場と分場の距離は縮むか–
……………情報企画科 林 博昭…6
人の動き……………6
あとがき……………高木 和彦…6

第61号(平成4年3月)

中山間傾斜地農業への対応…次長兼池田分場長 酒井 勇夫…1
研究成果の紹介

ビール麦発芽力の早期検定法……………作物科 野本 陽…2
ハスモンヨトウの数種薬剤に対する感受性の実態調査
……………病虫科 中野 昭雄…3
タラノキ側芽ふかし栽培における原木に対する
生長調節剤処理効果……………池田分場特作科 河野 充憲…3

研究情報

スーパースパウトスプレーヤ(送風防除機)による
ハス田での薬剤散布試験……………環境科 井内 晃…5
洋ニンジンの洗浄水の水質が黒しみ発生に及ぼす影響
……………農芸化学科 豊成 傑…6
あとがき……………花き科 高木 和彦…6

第62号(平成4年6月)

パイテック施設の充実と新技術への挑戦……………場長 住友 昭利…1
パイテック関連施設整備される……………育種科 小川 純…2
平成4年度試験研究課題……………次長 玉井 克郎…4
研究情報 グラジオラスの切り下球を利用した4~5月出荷
……………花き科 高木 和彦…5

農試あれこれ 一目でわかる気象観測装置導入
……情報企画科 林 博昭…5

研修を終えて

プロトプラスト培養系と細胞融合に関する研究
……育種科 井内 美砂…5
スタチ生産出荷シミュレーションモデルの作成
……経営科 武知 毅…6

人の動き 人事異動, 昇任……………6
組織の動き……………6
あとがき……………農芸化学科 黒田 康文…6

第63号(平成4年10月)

農業試験場の長期研究計画の樹立……………場長 住友 昭利…1
研究成果の紹介
イチゴうどんこ病に対する薬剤散布効果の低下に
関する要因について……………病虫科 金磯 泰雄…2
ミニパイプハウスの温度管理とべたがけ被覆期間の違いが
春カブの生育に及ぼす影響……………野菜科 川下 輝…2
促成キュウリの樹勢維持対策としての電照効果
……海南分場 古藤 英司…4

研究情報

水稻の乳苗移植栽培技術……………作物科 野本 陽…4
土性の違いが洋ニンジンの収量・品質に及ぼす影響
……農芸化学科 斎藤由美子…6

研修を終えて キャベツ収穫機の開発に関する研究
……池田分場特作科 河野 充憲…7

農試あれこれ 板東主任研究員に全国農業試験場長会
研究功労賞……………場長 住友 昭利…8
人の動き 人事異動……………8
あとがき……………農芸化学科 黒田 康文…8

第64号(平成5年3月)

花きをめぐる情勢と試験研究の対応…花き科長 浦上 好博…1
研究成果の紹介
ナスにおける幼若ホルモンを利用したミナミキイロ
アザミウマの防除体系……………病虫科 喜田 直康…2
基盤整備田の畑地利用(麦作)における排水改善技術
……農芸化学科 松家 義克…3

研究情報

ハウスレンコンにおける早期収穫の温度管理
……野菜科 板東 一宏…4
シンビジウムにおけるロックウールの利用効果
……花き科 浦上 好博…4
無人農業散布機(器)による作物体への農薬付着量
……環境科 井内 晃, 谷 博…5

農試あれこれ 新型コンピュータ来る
……情報企画科 林 博昭…6
あとがき……………農芸化学科 黒田 康文…6

第65号(平成5年7月)

農業試験場長就任に当たって……………場長 坂尾 治雄…1
21世紀を見通した研究施設の整備……………2
平成5年度試験研究課題……………次長 酒井 勇夫…3
研究成果の紹介
ランドレーダー“フロンティア”登場 ~あなたの地域農業を
ライトアップ~……………経営科 武知 毅…4
ハウスのサイドの開閉とエンドウ病害の発生
~好湿性病害を防ぐには, 雲雨天日や夜間にサイドの開放を~
……病虫科 金磯 泰雄…5

人の動き 人事異動, 昇任……………6
あとがき……………作物科 近藤 真二…6

第66号(平成5年10月)

県南農業の課題と海南分場の役割…海南分場長 古藤 英司…1
成果 促成キュウリの摘葉法……………海南分場長 古藤 英司…2
成果 グラジオラスの自家養成球を利用した5月出荷
……花き科 高木 和彦…3
成果 徳島県におけるコナガのキチン合成阻害剤の
感受性の低下……………病虫科 喜田 直康…4
情報 水田におけるメタンガス発生調査
……農芸化学科 松家 義克…5
情報 四季成り性イチゴ‘みよし’を用いた秋冬・初夏
二期どり作型の開発……………池田分場 林 純二…5
成果 高齢化に伴う露地野菜作産地の経営対応
……経営科 岩花 量盛…6

第67号(平成6年2月)

中山間地域農業の活性化と池田分場池田分場長 美馬 克美…1
情報 水稻極早生良食味品種「キヌヒカリ」および
早生糯品種「モチミノリ」の紹介 ……作物科 広田 年信…2
情報 敷草処理による窒素の溶出が水稻の生育, 収量に
及ぼす影響……………農芸化学科 黒田 康文…3
情報 天敵利用による施設栽培トマトのコナジラミ類防除
……病虫科 中野 昭雄…4
情報 青果物予冷の効果と問題点……………経営科 武知 毅…5
情報 シンビジウムのロックウール栽培における
置き肥の種類と施用量……………花き科 浦上 好博…6
長期研修報告 マルチング, 液肥葉面散布と
ハウレンソウの品質……………野菜科 北岡 祥治…6
あとがき……………作物科 近藤 真二…6

第68号(平成6年7月)

農業試験研究100年の節目に立って……………場長 坂尾 治雄…1
平成6年度の試験研究課題と推進方向……………次長 酒井 勇夫…2
研究成果 春ニンジンと夏野菜, 地力増進作物を組み
合わせた三毛作体系の導入効果……………経営科 岩花 量盛…3
情報 サツマイモの機械定植システムに対応した新育苗法
……野菜科 吉田 良…4
情報 シオデ生育特性の解明…池田分場特作科 後藤 昭文…5
農試あれこれ 試験研究の情報化いろいろ
……情報企画科 林 博昭…6
人の動き 人事異動, 昇任……………6
あとがき……………野菜科 吉田 良…6

第69号(平成6年12月)

花き情勢と品種改良……………花き科長 浦上 好博…1
研究成果 砂の粒径分布の簡易測定法
……農芸化学科 黒島 忠司…2
研究成果 トルコギキョウの秋・春二度切り作型の開発
……花き科 高木 和彦…3
情報 トマトの循環式ロックウール栽培における
高度環境制御技術の開発……………野菜科 佐藤 章裕…4
海外研修報告 ヨーロッパ農業を見て思うこと
……野菜科 川下 輝…5
第24回国際園芸学会議(IHC)
花きエクスカージョンの開催……………花き科 浦上 好博…6
あとがき……………野菜科 吉田 良…6

第70号(平成7年3月)

- 生産現場に直結した技術開発のために……次長 酒井 勇夫…1
- 研究成果 ビニルハウス側面上部の開放によるハス褐斑病の防除………病虫科 金磯 泰雄…2
- 研究成果 青果物予冷の経済効果と評価…経営科 河村 智嗣…3
- 研究成果 カレヘン台木を用いた夏秋ナスの一字整枝法………野菜科 水口 潔…4
- 研究成果 合成性フェロモン剤の利用によるサツマイモ畑のハスモンヨトウ防除………病虫科 中野 昭雄…5
- 情報 山間地農業の特徴と問題点………経営科 岩花 量盛…6
- あとがき………野菜科 吉田 良…6

第71号(平成7年6月)

- 現場の期待に応える試験研究………場長 町田 治幸…1
- 平成7年度重点研究課題と推進方針………次長 酒井 勇夫…2
- 研究成果 ごうしゅいものマイクロチューバー形成法………育種科 井内 美砂…3
- 研究成果 砂地畑の微細粒子除去によるサツマイモの品質向上………農芸化学科 梯 美仁…4
- 情報 農薬登録外資材の病害防除効果…病虫科 金磯 泰雄…5
- 長期研修報告 トマト苗の定植前後における地上部及び地下部生長の解析………池田分場園芸科 林 純二…6
- 人の動き 人事異動,昇格………6
- あとがき………農芸化学科 梯 美仁…6

第72号(平成7年10月)

- 筍の産地動向と試験研究の課題………阿南筍試験地専門研究員 東出 圓朗…1
- 研究成果 茶摘採機の開発………池田分場特作科 後藤 昭文…2
- 研究成果 3月どりトンネルニンジンの厳寒期における温度管理………海南分場 阪口 豊美…3
- 研究情報 夏秋イチゴの流通過程と温度変化………経営科 河村 智嗣…4
- 研究情報 アーティチョークの播種期と収穫期………野菜科 水口 潔…5
- 研究情報 施設栽培ナスにおける幼若ホルモンを利用したミナミキイロアザミウマの防除………病虫科 原田 正剛…6
- あとがき………農芸化学科 梯 美仁…6

第73号(平成8年2月)

- 野菜栽培の省力化技術開発の視点………専門研究員兼野菜科長 川下 輝…1
- 研究成果 生長調節物質処理および換気方法の違いがシュコンカスミソウ切り花の形状に及ぼす影響………花き科 大和 明弘…2
- 研究成果 洋ニンジンのミニパイプハウス栽培における施肥と養分吸収………農芸化学科 黒島 忠司…3
- 研究成果 クロルピクリンの拡散抑制…環境科 谷 博…4
- 研究情報 中山間地域の気象資源を活用する………情報企画科 林 博昭…5
- 研究情報 トマトの循環式ロックウール栽培における有機物・微生物資材の利用について 野菜科 佐藤 章裕…5
- 長期研修報告 低温条件下における甘しょの食味及び内容成分の相互関係………野菜科 水口 潔…6
- 長期研修報告 ネコブセンチュウの簡易同定法の習得………病虫科 中野 昭雄…6

第74号(平成8年7月)

- 21世紀農業技術対応の施設整備等完了…場長 町田 治幸…1

生まれ変わったほ場・施設の紹介

- 21世紀型農業技術開発推進整備事業の実績 ……2
- 平成8年度重点研究課題………次長 山下 久男…4
- 研究成果 水稲認定品種なつたよりの特性………作物科 山本 善太…5
- 情報 促成イチゴのマルチング後定植による作業の軽減化ー白黒マルチで好結果ー………野菜科 川下 輝…6
- 人の動き 人事異動………6
- あとがき………野菜科 佐藤 章裕…6

第75号(平成8年10月)

- 農産物自由化時代への対応………次長 山下 久男…1
- 特集 環境にやさしいサツマイモ栽培でんぶん資材等によるサツマイモ立枯病の防除………病虫科 金磯 泰雄…2
- マルチの厚さの違いによるクロルピクリンの拡散抑制………環境科 谷 博…3
- 研究成果 マルチ・遮光処理による8~9月どりトルコギキョウの高品質化技術………池田分場園芸科 高木 和彦…4
- 研究情報 带状皆伐による筍の早出し………阿南筍試験地 川口 公男…5
- 「地域基幹農業技術体系化促進研究」中山間農業技術部会現地検討会が本県で開催される…情報企画科 板東 一宏…5
- 長期研修報告 露地野菜の機械化作業技術ートンネル支柱打ち機の開発ー………野菜科 吉田 良…6
- 新製品開発のための緑茶主要個別カテキン類の抽出法の検討………池田分場特作科 豊永 恭代…6

第76号(平成9年3月)

- 中山間地域農業に思う………次長兼池田分場長 行成 正昭…1
- 研究成果 クルクマ・シャロームの特徴と作期拡大………海南分場 阪口 豊美…2
- 研究成果 スプレーギク(風車タイプ)の新品種育成………花き科 大和 明弘…3
- 研究成果 天敵昆虫オンシツツヤコバチに影響のない薬剤の利用法………病虫科 中野 昭雄…4
- 研究情報 タラノメの収穫期延長技術の開発………池田分場特作科 後藤 昭文…5
- 望ましい手入れ砂………農芸化学科 黒島 忠司…5
- 長期研修報告 市販の洋ニンジンのβ-カロチン含量と数種の糖含量………農芸化学科 松家 義克…6
- 「バイオテクノロジー実技講座I」が開催される………花き科 新居 宏延…6

第77号(平成9年6月)

- 環境保全型農業の技術確立に向けて………専門研究員兼病虫科長 金磯 泰雄…1
- 平成9年度重点研究課題………次長 山下 久男…2
- 研究成果 四季成り性イチゴを用いた秋冬・初夏二期どり栽培における電照の利用法…池田分場園芸科 高木 和彦…3
- 研究成果 県内の主要な土壌の地力変遷について………農芸化学科 松家 義克…4
- 研究情報 環境保全型マルチを利用したレタス栽培…野菜科 井方 宏典…5
- 環境保全型農業シンポジウム開催される…野菜科 板東 一宏…5
- 新地域基幹研究始まる………情報企画科 川下 輝…6
- 人の動き………6

金磯専門研究員兼病虫科長に全国農業試験場長会研究功労賞
……場長 町田 治幸…6
あとがき……………育種科 井内 美砂…6

第78号(平成9年10月)

県南地域農業振興に思う ―徳島県南部地域の農業―
……専門研究員兼海南分場長 蟻馬 啓延…1
研究成果 茶加工食品(粉末茶)の開発
……池田分場特作科 高木 一文…2
研究成果 温風暖房機を利用した送風処理による
キュウリべと病の防除……………病虫科 金磯 泰雄…3
研究情報 施設キュウリ栽培におけるセル苗利用の栽培技術
……海南分場 蟻馬 啓延…4
研究情報 サツマイモのつるの養液栽培装置の開発
……野菜科 吉田 良…5
長期研修報告 インターネットを利用した農業気象情報の提供
……情報企画科 林 博昭…6
農業試験場ホームページ オープン…情報企画科 林 博昭…6

第79号(平成10年2月)

農業試験場の新研究長期計画……………場長 町田 治幸…1
研究成果 シンビジウム切り花栽培における被覆肥料の
溶出タイプと生育開花……………花き科 新居 宏延…2
研究成果 サツマイモ栽培における砂地畑土壌の適正粒径組成
……農芸化学科 梯 美仁…3
研究成果 良食味水稲「北陸159号」の紹介
……作物科 豊成 傑…4
研究情報 タラノメの出荷予測ソフトの開発
……経営科 佐藤 章裕…5
研究紹介 バードストライクに関するバッタの発生調査
……病虫科 原田 正剛…6
「研究開発ジャンプアップ事業」によるセミナー・
研究評価会が開催される……………次長 山下 久男…6
☆お元気で!お疲れさまでした(北原レナ真紀さん)……………6
あとがき……………育種科 井内 美砂…6

第80号(平成10年7月)

試験研究推進の一思考……………場長 酒井 勇夫…1
平成10年度重点研究課題……………次長 美馬 克美…2
研究成果 サツマイモのつる処理機の開発
……野菜科 吉田 良…3
研究成果 機能的食品素材用桑葉粉末の簡易製造法
……鴨島分場栽桑科 佐藤 泰三…4
研究成果 12月出荷「秀芳の力」の直挿し栽培技術
……花き科 豊永 恭代…5
地域基幹研究現地検討会開催される…情報企画科 川下 輝…6
人の動き 人事異動,昇格……………6

第81号(平成10年10月)

蚕糸研究に期待される課題……………鴨島分場長 岡本 征二…1
研究成果 冬期におけるサツマイモ立枯病に対するクロルピ
クリン剤によるマルチ畦内消毒効果…病虫科 金磯 泰雄…2
研究成果 組織培養によるクサソテツの大量増殖技術
……育種科 井内 美砂…3
研究成果 野菜栽培土壌の下層土における硝酸態窒素の
集積実態……………農芸化学科 松家 義克…4
研究情報 環境にやさしいヤシガラ培地を利用した
トマトの養液栽培……………野菜科 板東 一宏…5

研究情報 タラノメの出荷予測ソフトの精度向上
……経営科 佐藤 章裕…5
長期研修報告 トンネルニンジンの生育予測モデルの開発
……野菜科 井方 宏典…6
阿南筍試験地の新築移転……………筍試験地 川口 公男…6

第82号(平成11年3月)

中山間地域農業への技術対応…次長兼池田分場長 林 捷夫…1
研究成果 山間の標高差を利用したトルコギキョウの
10~11月どり栽培……………池田分場園芸科 北岡 祥治…2
研究成果 茶園における施肥の合理化
……池田分場特作科 西岡 春美…3
研究成果 良食味水稲「あわみのり」の栽培法
……作物科 豊成 傑…4
研究成果 自生タキユリの変異と利用…海南分場 阪口 豊美…5
研究情報 軟弱野菜の市場性……………経営科 喜田 直康…6
長期研修報告 天敵寄生蜂の分類および同定技術の習得
……病虫科 原田 正剛…6

第83号(平成11年7月)

研究成果の普及に向けて……………場長 福居 幸治…1
平成11年度重点研究課題……………次長 美馬 克美…2
研究成果 带状皆伐による筍の早掘効果について
……筍試験地 安淵 次郎…3
研究成果 イチゴ新品種「めぐみ」……………野菜科 吉田 良…4
人の動き 人事異動,昇格……………4

第84号(平成11年11月)

施設野菜における新技術の開発……………野菜科長 板東 一宏…1
研究成果 イチゴの有機培地による簡易高設養液栽培
システムの開発……………野菜科 松崎 正典…2
研究成果 促成ナスのセル成型苗直接定植技術
……野菜科 井方 宏典…3
研究成果 春夏期におけるガラス室の温度管理と
キュウリ病害の発生……………病虫科 金磯 泰雄…4
研究情報 おが屑鶏糞堆肥の土壌中での無機化特性
……農芸化学科 小川 仁…5
長期研修報告 土壌病原菌の動態把握手法
'nit変異株の作出'……………病虫科 米本 謙悟…6
研修員紹介……………6

第85号(平成12年3月)

「売れる米づくり」への対応……………作物科長 藪内 和男…1
研究情報 藍セル成型苗の機械移植における栽植様式
……作物科 南 明信…2
研究成果 県内農耕地土壌における地力変遷
……農芸化学科 松家 義克…3
研究成果 サツマイモ立枯病抵抗性の簡易検定法
……育種科 井内 美砂…4
研究成果 省力・安価なサツマイモ高設育苗システムの開発
……野菜科 吉田 良…5
長期研修報告 米の食味評価技術の習得…作物科 豊成 傑…6
全日本蔬菜原種審査会が開催される…野菜科 板東 一宏…6
地域交流フォーラム開催……………花き科 高木 和彦…6

第86号(平成12年7月)

試験研究の効果的・効率的推進……………場長 山本 英記…1
平成12年度重点研究課題……………次長 美馬 克美…2

研究成果 夏季におけるハウレンソウの価格設定
 ……経営科 喜田 直康…3
 研究成果 トンネルニンジン栽培における作付体系別養分収支
 ……農芸化学科 中野 充宏…4
 研究成果 ポット苗葉液浸漬処理によるイチゴ
 うどんこ病の防除……病虫科 米本 謙悟…5
 研究情報 ‘海部テッポウ’復活への試行
 ……海南分場 久米 洋平…6
 人の動き 人事異動,昇格……6

第87号(平成12年11月)

「手入れ砂」代替研究の現状と今後の展望
 ……農芸化学科長 梯 美仁…1
 研究成果 盛夏どりコマツナ栽培における安定生産技術
 ……野菜科 杉本 和之…2
 研究成果 沈澱藍による屑菌精練菌層の染色法
 ……嶋島分場蚕糸応用科 三木 健司…3
 研究成果 シロコタケノコ生産技術の確立
 ……阿南筍試験地 安瀨 次郎…4
 研究情報 組織培養によるヤブカンゾウの大量増殖
 ……育種科 川村 泰史…5
 長期研修報告 キクの高温障害とそれに係わる諸要因について
 ……花き科 新居 宏延…6
 研究情報 砂地畑における新土壌水分測定法
 ……農芸化学科 小川 仁…6

第88号(平成13年3月)

新世紀の幕開けに思う……花き科長 高木 和彦…1
 研究成果 シンテッポウユリ新品種‘阿波の白雪’の育成
 ……花き科 高木 和彦…2
 研究成果 チンゲンサイのマメハモグリバエ対策物理的
 防除資材の利用による防除技術……病虫科 中野 昭雄…3
 研究成果 普通期水稻における鶏糞おがくず堆肥の施用効果
 ……作物科 吉原 均…4
 研究成果 環境にやさしいトマトの許容価格
 ……経営科 秋月 学…5
 期研修報告 水稻薬培養における培養効率の向上
 ……作物科 吉原 均…6
 トピックス ハウレンソウ原種審査会の開催
 ……野菜科 吉田 良…6
 研修員紹介……6

第89号(平成13年8月)

農業研究所としての再発進……所長 山本 英記…1
 平成13年度重点研究課題 ……次長 田村 康弘…2
 研究成果 環境にやさしいトンネルニンジンの施肥基準
 ……生産環境担当 松家 義克…3
 研究成果 粒剤の作物移行と土壌中の消長
 ……生産環境担当 亀代 美香…4
 研究成果 簡易定植機利用によるケイトウの栽培
 ……栽培育種担当 前田 典子…5
 地域基幹研究現地検討会が開催される
 ……栽培育種担当 板東 一宏…6
 徳島県立農林水産総合技術センター農業研究所となる……6
 栽培育種担当高木科長に全国農業関係試験研究場所長会
 研究功労賞……所長 山本 英記…6

第90号(平成13年11月)

持続的農業生産技術の確立に向けて……次長 田村 康弘…1

研究成果 マルチ内点滴灌水による節水とトルコギキョウの
 高品質化……中山間担当 北岡 祥治…2
 研究成果 ニンジン大型トンネル支柱打ち込み機の開発
 ……プロジェクト担当 吉田 良…3
 研究成果 促成トマトにおける天敵昆虫サバクツヤコバチの
 利用法……病害虫担当 中野 昭雄…4
 研究成果 堆肥の表面施用によるレタス化学肥料低減栽培
 ……生産環境担当 水口 晶子…5
 研究情報 組織培養によるアサツキの大量増殖
 ……栽培育種担当 川村 泰史…6
 病害虫担当平川専門研究員兼科長に全国蚕糸関係試験
 研究運営協議会研究功労賞……次長 林 捷夫…6

第91号(平成14年3月)

新しい植物防疫研究体制と今後の取り組み
 ……病害虫担当次長 林 捷夫…1
 研究成果 夏期中冷却による細ネギの生産性の向上
 ……県南暖地担当 阪口 巧…2
 研究成果 トンネルニンジン収穫直後のソルガム栽培による
 残存窒素溶脱低減技術……生産環境担当 黒田 康文…3
 研究成果 サツマイモ挿苗用電動作業台車の開発
 ……プロジェクト担当 吉田 良…4
 研究成果 環境にやさしい水田雑草防除技術の開発
 ……栽培育種担当 中野 理子…5
 研究成果 CVMによる中山間地域農業・農村の公益的機能評価
 ……企画経営担当 秋月 学…6
 研究情報 キャベツ・ブロッコリーの長期セル苗育苗技術の開発
 ……栽培育種担当 村井 恒治…7
 長期研修報告 ‘さちのか’の促成栽培における低温
 暗黒処理による安定生産……栽培育種担当 松崎 正典…8
 トピックス サツマイモ食味研究会の開催
 ……プロジェクト担当 梯 美仁…8
 トピックス 砂地畑地域交流フォーラムの開催
 ……栽培育種担当 杉本 和之…8

第92号(平成14年8月)

農業研究所の今後のあり方……所長 美馬 克美…1
 平成14年度重点課題 ……次長 田村 康弘…2
 研究成果 県内砂地畑土壌の地域特性
 ……プロジェクト担当 小川 仁…3
 研究情報 砂地畑における土壌水分の遠隔観測と
 インターネット対応……企画経営担当 林 博昭…4
 研究情報 野菜畑への有機物の大量施用が土壌環境へ及ぼす影響
 ……生産環境担当 松家 義克…5
 研究成果 自動カウントフェロモントラップを利用した
 害虫の発生予察……病害虫担当 後藤 昭文…6
 人の動き 人事異動,昇格……6

第93号(平成14年10月)

傾斜畑に山菜等摘み取り園を…中山間担当次長 川下 輝…1
 研究成果 麦類新奨励品種「チクゴイヅミ」
 「ニシノホシ」の紹介 ……栽培育種担当 藪内 和男…2
 研究成果 トマトの循環式養液栽培におけるヤシガラ
 培地の連用性……栽培育種担当 杉本 和之…3
 研究成果 コゴミのふかし栽培技術中山間担当 高木 一文…4
 研究成果 組織培養によるノカンゾウの大量増殖
 ……栽培育種担当 川村 泰史…5
 研究情報 県内土壌の土壌環境基準項目(ホウ素)の
 調査結果について……生産環境担当 黒田 康文…6

第94号(平成15年3月)

- プロジェクト担当をご存じですか?
 ……プロジェクト担当リーダー 梯 美仁…1
 農業研究所一般公開「見て、聞いて、なっとく農業新技術」
 を開催しました……………2
 研究成果 コシヒカリ早期栽培における省力化技術と
 品質・食味の向上……………栽培育種担当 藪内 和男…4
 研究成果 機械移植による藍の省力栽培法
 ……栽培育種担当 南 明信…5
 研究成果 夏期中冷却による細ネギの生産性の向上
 その2……………県南暖地担当 阪口 巧…6
 研究成果 ケイトウの連結式ペーパーポット用簡易播種器の開発
 ……栽培育種担当 高木 和彦…7
 研究成果 露地栽培コマツナに利用する防虫ネットの
 目合いと発生害虫……………病害虫担当 田中 昭人…8
 研究情報 ナノハナリレー出荷のための50mメッシュ
 気温分布図の作成……………企画経営担当 秋月 学…9
 トピックス 地域交流フォーラムの開催
 ……企画経営担当 秋月 学…10
 長期研修報告 砂地畑における高精度な土壌水分測定技術
 ……プロジェクト担当 小川 仁…10

第95号(平成15年7月)

- 農業研究所百周年を考える……………所長 美馬 克美…1
 平成15年度 重点課題……………次長 川下 輝一…2
 研究成果 サツマイモを高品質栽培するための土壌水分管理技術
 ……プロジェクト担当 小川 仁…3
 研究成果 ホウレンソウ栽培における環境にやさしい施肥技術
 ……生産環境担当 横田 香…4
 研究成果 タラノキ園土壌におけるタラノキ立枯疫病菌
 検出法の開発……………病害虫担当 米本 謙悟…5
 総合学習・職業体験学習で小・中学生が来所
 ……企画経営担当 広田 恵介…6
 人の動き 人事異動,昇格……………6
 農業研究所百周年記念行事予定……………6

第96号(平成15年12月)

- 病害虫防除所と食の安定・安全供給
 ……病害虫担当次長 谷本 温暉…1
 研究成果 山ぶきの新品種‘フキ徳島1号’
 ……中山間担当 高木 一文…2
 研究成果 オンシジウム切り花栽培における適切な
 年間窒素施用量……………栽培育種担当 近藤 真二…3
 研究成果 ヤシガラ培地を用いたトマトの循環式養液
 栽培における培養液管理……………栽培育種担当 杉本 和之…4
 研究成果 露地栽培コマツナにおける減農薬モデルの
 策定とその実証……………病害虫担当 中野 昭雄…5
 農業研究所一般公開を開催しました……………6
 農業研究所百周年関連行事……………7
 長期研修報告 トマト環境保全型養液栽培における
 有機培地特性……………栽培育種担当 杉本 和之…8

第97号(平成16年3月)

- タケノコ生産の変遷と課題
 ……県南暖地担当専門研究員 安瀨 次郎…1
 研究成果 イチゴ「さちのか」の空中採苗による挿し芽育苗
 ……栽培育種担当 板東 一宏…2
 研究情報 組織培養によるノビル的大量増殖
 ……栽培育種担当 川村 泰史…3

- 研究情報 スイカ果実汚斑細菌病によるウリ科野菜の病徴
 ……病害虫担当 平川 文男…4
 研究情報 施肥管理の来歴を土壌と農作物のδ¹⁵N値から
 推定する……………生産環境担当 黒田 康文…5
 長期研修報告 コマツナ白さび病の発病好適条件
 ……病害虫担当 中野 理子…6
 野菜づくり教室を開催しました…企画経営担当 広田 恵介…6

第98号(平成16年8月)

- 農業研究所も新たな世紀を迎えて……………所長 加々美好信…1
 平成16年度重点課題……………次長 川下 輝一…2
 研究成果 施設内における土壌還元消毒法の効果
 ……病害虫担当 米本 謙悟…3
 研究成果 有効積算気温法によるタラノメの収穫予測
 ……中山間担当 小角 順一…4
 研究成果 おがくず鶏糞堆肥連用時の土壌への影響と水稲一
 ホウレンソウ体系での適正施用量
 ……生産環境担当 水口 晶子…5
 農林水産省の提案公募型事業に3課題が採択されました
 ……企画経営担当 貞野 光弘…6
 人の動き 人事異動,昇格……………6

第99号(平成16年12月)

- 時代の要請に応えるために……………病害虫担当次長 谷 桂爾…1
 研究成果 水田におけるスルホニルウレア(SU)抵抗性
 雑草の発生と対策……………栽培育種担当 山本 善太…2
 研究成果 レタス栽培における亜酸化窒素の発生抑制技術
 ……生産環境担当 横田 香…3
 研究情報 徳島県トマト農家の現状と意向
 ……企画経営担当 秋月 学…4
 研究情報 遠隔画像観測による農作物の生育状況調査
 ……企画経営担当 林 博昭…5
 平成16年度農業研究所一般公開が実施される
 ……企画経営担当 秋月 学…6

第100号(平成17年3月)

- 競争激化の中での中山間オンリーワン育成
 ……中山間担当次長 脇屋 春良…1
 研究成果 「なると金時」の糖含量に及ぼす水分と
 β-アミラーゼの影響……………プロジェクト担当 梯 美仁…2
 研究成果 水稲品種「あきたこまち」の奨励品種採用
 ……栽培育種担当 吉原 均…3
 研究成果 コショウランのPLB形成に及ぼす切れ目処理の影響
 ……栽培育種担当 新居 宏延…4
 研究情報 在来寄生蜂チャバラアブラコバチによる
 ヒゲナガアブラムシ類防除……………病害虫担当 中野 昭雄…5
 トピックス 地域交流フォーラムが開催されました
 ……企画経営担当 秋月 学…6
 編集後記……………栽培育種担当 佐藤 泰三…6

徳島県立農林水産総合技術センター
 農業研究所ニュース 第100号
 平成17年3月
 編集・発行 徳島県立農林水産総合技術センター農業研究所
 〒779-3233 徳島県名西郡石井町石井
 TEL (088)674-1660 FAX (088)674-3114
 http://www.green.pref.tokushima.jp/nogyo/
 印刷 グランド印刷株式会社

◆資源保護のため古紙100%再生紙を使用しております。